

着くずれに対するスポーツ選手と非スポーツ選手の差異について
大阪薫英女短大 三浦美子

目的 第1報から第3報までの実験中、被験者のうち、ずれ率の比較的小さい者に対して聞き取り調査を行ったところ、中・高校在学中3~4年間スポーツクラブに所属して練習に励んだ者が多かった。今回は、いわゆる運動部員で学校代表選手として対外試合やその他に参加出場した経験をもつ者をAグループとし、それらの経験を全くもたないBグループとを比較してずれ率にどのような差異があるかをみる目的で着装実験を行った。

方法 被験者であるスポーツ選手は、硬球テニス 体操 水泳の3名で、バトントワリング フラスバンド部の2名は、外部団体との共演で各種大会におけるパレードに参加しており、いずれも19才の女子短大生である。実験衣、着装方法、歩行種類、測定部位は前回と同様で、1979年と80年の4月下旬から5月上旬にかけて気温の比較的安定している時期に実施した。

結果 測定部位のうち衿先点では、A・Bグループ共変動は小さいが、胸もとのくずれはAグループの方が小さく、実験中の所見も特にバトントワリング フラスバンド部に所属していた被験者は胸上部の動きがほとんど見られなかった。したがって着くずれの原因はヒューマンサイドにも認められ、平素訓練によって歩行時において、上半身の変形の少ないスポーツ選手に着くずれの少ないことを証明している。